旭化成に学ぶ生成AI時代の知財インテリジェンス：効率化から「意思決定と行動」の高度化へ

旭化成の知財インテリジェンスは、分析の試行回数を増やし意思決定の質を高めるモデルへ進化。
人間が課題設定と行動接続を担い、AIが中間処理を高速化し、事業成果に直結する知財活動を実現。

役割分担の最適化：人間とAIの協調モデル



最上流（課題設定）

依頼者の真の課題特定、問いの設定、
事業文脈での解釈および提案・
巻き込みを人間が担う。



予備調査、分析軸の生成、意味的絞り込みや
ラベリングをAIに担わせ、分析の試行回数を増福。

最下流（行動接続）



行動接続・提案

評価軸の転換：アウトプット量から「行動成果」へ



以前の指標：
アウトプット量（レポート作成数）

新指標：成果指標（KPI）

アクション率　リピート率

レポート作成数ではなく、分析が意思決定や
施策実行に驚がった創合で成業を評価。



浮いた時間を
「多角分析と対話」へ再投資

処理短縮時間を追加の偏説検証や事業部
との対話に充て、提案の価値と深さを向上。

Gemini Notebook